

地域住民が期待するかかりつけ医師像に関する研究会報告書（概要）

平成 20 年 3 月 国民健康保険中央会

1. 研究の趣旨・目的

少子高齢化の急速な進展等に伴って、いわゆる臓器別の専門医療だけでなく、地域医療において全人的な医療の普及が求められるようになってきている。そうした全人的な医療の担い手として、地域の開業医・診療所の役割・位置づけが大きくなっており、本研究会では、地域医療を担っている医師を対象にアンケートと訪問ヒアリングを行って、提言をとりまとめた。

2. 研究の概要

研究会委員ならびに関連する団体の推薦に基づいて選定した、266 人の医師に対してアンケートを実施（156 人より回答）。さらに、回答を頂いた医師の中から 17 人を選んで訪問ヒアリングを実施。

3. 提言

（1）地域医療を担う「総合医」像

今回調査の対象となった医師は、以下の 6 つの点で共通。

- ◆ 日常的な疾患（コモン・ディジーズ）に対応し、プライマリ・ケアを実践している
- ◆ 他の専門的な医療機関等を適切に紹介することができる
- ◆ 地域において疾病予防や健康相談を含めた健康づくりを行っている
- ◆ 患者や地域住民の生活状況をよく把握している
- ◆ 時間外・夜間の対応を積極的にしている
- ◆ 往診や在宅医療に積極的に取り組んでいる

活動の特徴として、専門分野に偏らずほとんど全ての日常的な疾患に対応していること、患者の状況を総合的に判断して適切な医療（紹介も含め）を行っていること、患者家族や地域住民の生活を支えていること、等が挙げられ、「かかりつけ医」という言葉に代えて、「総合医」と呼ぶことがふさわしい。

（2）「総合医」の確立

早急に「総合医」が社会的に確立されたものとなり、全国に普及していくことが求められる。そのためには、「総合医」を養成するコースを設定して、それぞれのコースに合わせた教育・研修の体制を整備した上で、認定をしていくことが考えられる。（認定の条件等は関係者間の協議で決めることを想定。）

（3）「総合医」を育てる教育・研修・学習のあり方

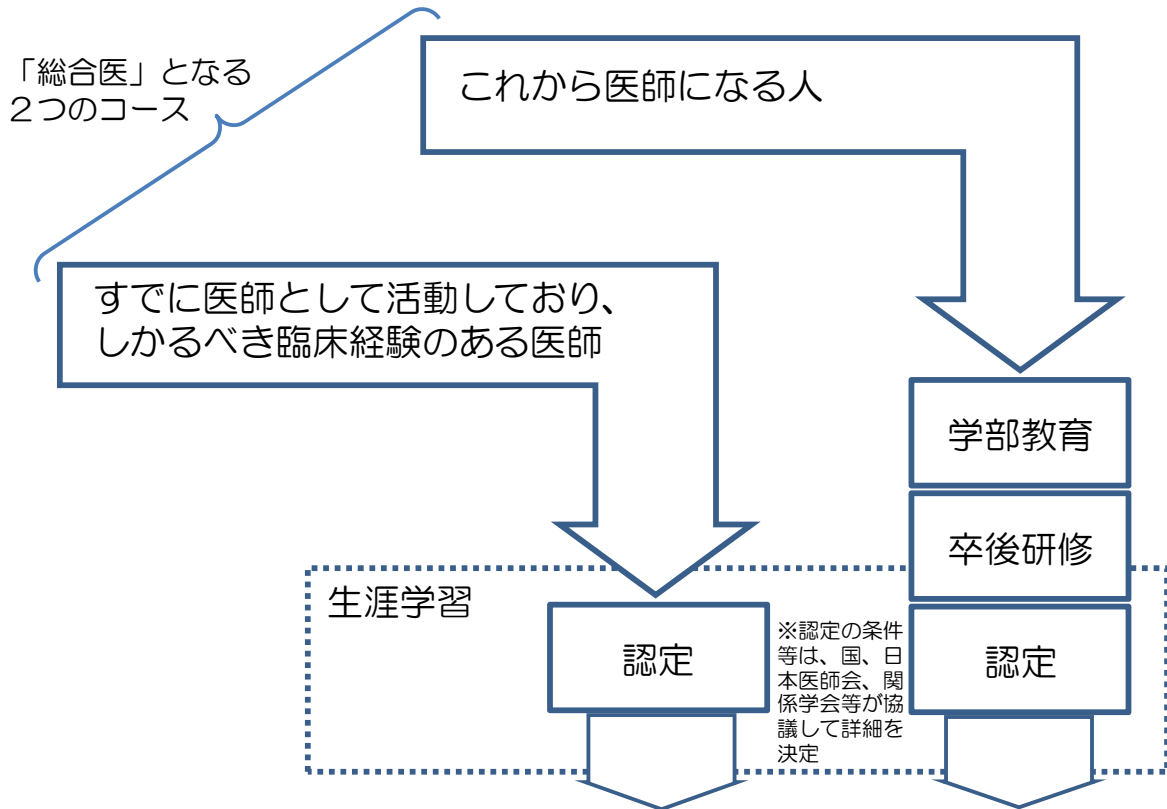
- ◆ 学部教育においては、「総合医」を育成するためのカリキュラム構成の見直しと医学部学生が「総合医」の活動に触れる機会の設定が求められる。
- ◆ 卒後研修においては、「総合医」として求められる技術・能力などを習得するための実践的研修機会の拡充が求められる。
- ◆ 生涯学習においては、「総合医」としての医療技術を保つための学習機会の拡充が求められる。

（4）「総合医」を支える環境整備

- ◆ 「総合医」と協力しその活動を支える職種の育成・確保が求められる。
- ◆ 関連する機関とは、役割分担を明確にした上で、協力・連携を推進することが求められる。
- ◆ 特にへき地や離島等の「総合医」を支援するための情報インフラの整備が求められる。
- ◆ 「総合医」の活動が十分評価され、その活動が助長されるような報酬のあり方を検討することが求められる。

以上

提言の全体像



地域医療を担う「総合医」

- ・ 日常的な疾患（コモン・ディジーズ）に対応し、プライマリ・ケアを実践している
- ・ 他の専門的な医療機関等を適切に紹介することができる
- ・ 地域において疾病予防や健康相談を含めた健康づくりを行っている
- ・ 患者や地域住民の生活状況をよく把握している
- ・ 時間外・夜間の対応を積極的にしている
- ・ 往診や在宅医療に積極的に取り組んでいる

「総合医」と協力して活動する様々な職種
の育成

関連する機関の連携の推進

情報インフラの整備

「総合医」の活動に合わせた報酬の検討

「総合医」を支える環境整備